

## 技術概要書（様式）

※別紙2

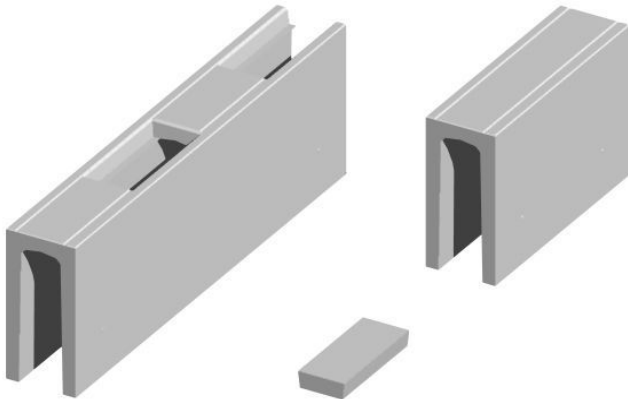
技術分類	<input checked="" type="radio"/> 安全 <input type="radio"/> 防災 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> ICT <input type="radio"/> 品質                    （該当する分類に○を付けてください）																				
技術名称	横帯ブロック	担当部署	技術課																		
NETIS登録番号	QS-110005-V	担当者	森山 典明																		
社名等	インフラテック株式会社	電話番号	050-3085-9434																		
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>河川護岸において、横帯工は、護岸の変位や破損が他に波及しないように絶縁するために一定区間毎に設けられます。従来は、コンパネなどで型枠を組み、生コンクリートを打設することで横帯工を形成していましたが、型枠の撤去・養生期間が必要となります。横帯工を二次製品化することで、本体・蓋版の設置、生コンクリート打設、仕上げの簡易施工となり、作業効率がよく、工期短縮を実現させたコンクリート二次製品です。</p> <p>2. 技術の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横帯ブロックは、本体と蓋版により形成される埋設型枠です。</li> <li>・横帯工を二次製品化することで、従来の現場打ち工法で行なっていた型枠設置、撤去、養生期間を不要とし、大幅に工期を短縮することができます。</li> </ul> <p>3. 技術の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型枠の設置、撤去、養生期間が不要なため、生コンクリート打設後、次工程の作業が行えるので、養生による工程待ちの解消や工期短縮が可能です。</li> <li>・埋設型枠であり、生コンクリート打設時の型枠バレがありません。</li> <li>・型枠工などの熟練工を必要としません。</li> <li>・河川護岸法面部分のコテ仕上げ作業が不要です。</li> </ul> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>緩勾配の河川護岸の横帯工、小口止工の形成に使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用寸法: 幅300mm、高さ650mm以下</li> <li>・適用法面勾配: 水平～1割</li> </ul> <p>5. 活用実績</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">国の機関</td> <td style="width: 15%;">38 件</td> <td style="width: 15%;">（九州</td> <td style="width: 15%;">38件</td> <td style="width: 15%;">、九州以外</td> <td style="width: 15%;">0件）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>45 件</td> <td>（九州</td> <td>45件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>0 件</td> <td>（九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件）</td> </tr> </table>			国の機関	38 件	（九州	38件	、九州以外	0件）	自治体	45 件	（九州	45件	、九州以外	0件）	民間	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件）
国の機関	38 件	（九州	38件	、九州以外	0件）																
自治体	45 件	（九州	45件	、九州以外	0件）																
民間	0 件	（九州	0件	、九州以外	0件）																

6. 写真・図・表

\* 製品規格

呼称	幅(mm)	高さ(mm)	長さ(mm)	重量(kg)
基本型	300	650	2000	400
端部型	300	650	995	215
投入口蓋版	200/180	70	494/474	15

\* 製品イメージ



\* 施工手順



\* 現場写真

